

大阪・関西における 2025年国際博覧会の開催に向けて

平成30年12月10日

世耕議員提出資料

大阪・関西における2025年国際博覧会の開催に向けて

- 11月23日、博覧会国際事務局（BIE）総会で、日本が2025年万博の開催国に決定。
- 東京オリパラ後の国家的なプロジェクトであり、開催に向けて、政府、地元自治体及び経済界がオールジャパンの体制で、大阪・関西万博の成功に万全を期す。

1. SDGsの達成に向けた万博

- 誘致に際して、Society 5.0を鍵としたSDGs（持続可能な開発目標）達成（目標年2030年）への貢献という訴えが国際的に高く評価された。
- そのため、Society 5.0に向けた成長戦略を一層加速化させるとともに、途上国を含めた多くの参加国と共に創る万博とすること（Co-creaiton）が重要。

2. 未来社会の実験場として

- 万博を、新たなアイデアが続々と生み出され、社会実装に向けて試行される「未来社会の実験場」とする。
- そのため、実験的なプロジェクトを推進する仕組みを設けるとともに、国内外の新たな人材を登用するなど、イノベーションの創出に向けた工夫をこらすことが重要。

3. 地域経済活性化の起爆剤に

- 万博は、日本の魅力を世界に発信する絶好の機会。
- 開催地である大阪・関西のみならず、日本各地を訪れる観光客を増大させ、地域経済が活性化する「起爆剤」とする。

(参考) 2025年国際博覧会について

1. テーマ・サブテーマ・コンセプト

テーマ : **いのち輝く未来社会のデザイン**
“Designing Future Society for Our Lives”
サブテーマ : 多様で心身ともに健康な生き方
持続可能な社会・経済システム
真の豊かさを感じられる生き方、それを可能にする経済・社会の
未来像を参加者で共創。
コンセプト : 未来社会の実験場 “People’s Living Lab”

2. 日本・関西・大阪で開催する意義

- ①未来社会で鍵となる科学・技術力、利他精神、アニメ等の文化
- ②アクセス等の利便性や治安が世界最高レベル
- ③多様な価値に対して寛容
- ④自然災害を乗り越え、自然と共生した持続可能な社会を提示

3. 基本事項

- ①開催場所
ゆめしま
夢洲（大阪市臨海部）
- ②開催期間
5/3～11/3(185日間)
- ③入場者(想定)
約2,800万人
- ④会場建設費(想定)
約1,250億円
- ⑤経済波及効果(試算値)
建設費約0.4兆円 運営費約0.5兆円 消費支出約1.1兆円



第164回BIE総会（11月23日）投票結果

◆ 投票第1回目 有効投票数156票

◎日本	85票
◎ロシア	48票
アゼルバイジャン	23票

※有効投票数の3分の2以上の票を得る国がなかったため、上位2か国で決選投票。

◆ 投票第2回目 155票

◎日本	92票
ロシア	61票
棄権	2票

今後の主なスケジュール案

- ～2019年1月 : 博覧会協会の設立
- 2019年春 : 特別措置法案の提出（通常国会）
- 2019年内目途 : 登録申請書のBIE提出
- 2020年6月 : BIE総会（登録申請書の承認
→ 正式な参加招請の開始）
- 2020年10月～ : ドバイ国際博覧会
2021年4月（参加招請の実施）
- 2025年5月3日 : 大阪・関西万博開催
～11月3日